



あいなん逸品図鑑 その④



「甘夏」

JA農業研修生(2期生)

唐田 耕佑さん(平山)



愛媛  
CATV  
動画



▲大きく育った甘夏を持つ唐田耕佑さん

以前はゲーム会社に勤め、祖父から続くかんきつ園地を引き継ぐために故郷に戻ってきた唐田耕佑さん。父と一緒に甘夏や河内晩柑の栽培を行いながら、JAえひめ南の農業研修事業に参加しています。

小さい頃に収穫の手伝いをした経験はあるものの、本格的に農業に取り組むのは初めてで、「草刈り機の使い方も知らなかったので、研修で一から農業について勉強することができて良かった」と話す唐田さん。今年の3月末で研修を終え、生産者として独り立ちをします。

現在、父と一緒に8反ほどの園地で甘夏を栽培しており、15~6トンの収穫量があります。甘夏は収穫した後、3月から肥料や木の剪定をして、5月ごろから消毒を行っていきます。10月の実ができた頃に枝の剪定や良い実だけを残す摘果作業をして、1月から収穫しています。今年の出来については、「小ぶりですが、糖度が高く酸味もほどよく抜けて、おいしくなっている」と自信を見せます。

実が大きくなるのが、目に見えて分かるところに農業のやりがいを感じている唐田さんは今後について、「今ある品種を栽培しながら園地を広くしつつ、新しい品種も育てていきたい」と目標を話しました。



▲収穫した甘夏を2~3カ月寝かせると、甘味が増します

「愛南町次世代ファーマーサポート事業」

JAえひめ南、愛南町、愛媛県が連携し、新規就農者を育成支援する「愛南町次世代ファーマーサポート事業」の研修期間を3月末に修了し、就農する方を紹介します。



愛媛  
CATV  
動画

3期生 宮川 泰彦さん

町内出身で全国各地を巡り農業をしていた宮川泰彦さん。新型コロナウイルス感染拡大により、都道府県を移動するのが難しくなってきたので、腰を据えて農業をしようと思い故郷に戻ってきました。

畑を探している中で、「愛南町次世代ファーマーサポート事業」の農業研修について知りました。宮川さんは忙しい時期の収穫や植え付けの経験はありますが、剪定や消毒など1年通して行う作業をしたことがなかったので、「学べる場があって良かった」と話します。

宮川さんは今後について、「愛媛県でしか栽培できない品種に挑戦し、全国販売していけるようになりたい」と意欲を見せていました。



令和4年度のJA 就農研修生を募集しています!!

▶募集期間 令和4年3月末まで ▶研修期間 令和4年4月から

詳しくは、JA えひめ南南宇和営農センター(電話:72-1160)にお問い合わせください。